

第2学年探究発表会

去る1月25日(火)12:45~16:30に、本校視聴覚教室及び特別教室棟3階フロアにおいて、普通科2年生による探究発表会が実施されました。

ポスターセッションでは、文系、理系、教育系、スポーツ・医療系、芸術系の計43テーマで発表が行われ、発表者がポスターの前に立ち、来訪者に説明して質問に答える形で進みました。お互いの研究成果を熱心に伝え合い、理解を深めていました。

また、口頭セッションでは、文系、理系の計11テーマについて1テーマずつ発表が行われ、各テーマとも持ち時間を余すことなく熱心に発表し、質疑応答にも臨みました。「ウツボカゾラの消化液」に関する研究では、実験対象の植物を会場へ持ち込んでの紹介も行われ、その消化液が床に置き土産となってしまうハプニングもありました。



今回の発表会では、助言者として、茨城大学理学部長の田内広教授、同人文学部の西野由希子教授にもご参加をいただきました。なお、急速な新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえ、急遽、オンラインでのご参加とさせていただきましたが、先生方からは、「自分が好きな分野を広く研究したことの大切さや過程と参考文献などの詳細さの必要性」などを指摘していただきました。さらに、理系の発表に関しては、「再現性がとても重要で誰が同じように実験しても同じ結果となるように、さらに緻密な記録が望まれる」との貴重なご助言などを頂戴することができました。

参加した生徒からは、「時間を気にして過程や参考文献・URLなど、細かい大事な点を省いてしまったので、もっと詳しく書くべきだったと反省した。」「文系は『池江璃花子選手や大谷翔平選手』などの発表は、興味深く、また自らの生き方を改めて考えるきっかけとなった。」「緊張してパワーポイントの時間配分がうまくいかなかった。」「今回は、相手に伝わりやすい発表の仕方があまり意識できなかったので、次は聞いてくれる相手の気持ちを考えて仕上げたい。」「文系の

『年代別』はわかりやすく、『伝統色』についてのプレゼンは、声が聞きやすく目の付け所が新鮮だった。」「理系の発表は、炭電池や地電流・スターリングエンジンと初めて聞く名称が多く、特色があった。」「普通の授業とは異なる独特なMCの力を感じた(笑)。」「今回の探求を通して、つらいこともあったけど自分たちの探求が完成したときの達成感を(一人の研究より)すごく得ることができた。」「最初のテーマから、どんどん広がってテーマが定まらなくなってしまった。楽しかった反面、もう少しガッチリと話し合っつめれば深い学びにつなげることができたかなあと気付かされた。」「この『探求』という時間は、大学生になってもレポートや発表等できっと必要とされるので、反省を生かし、次はクオリティを上げていけたらと思った。」などの感想がありました。

コロナ禍などのため、何かと制約が多い探究活動となってしまいましたが、自ら設定したテーマについて、確かな学びを深めることのできた発表会となりました。